

第68回 国際食肉科学技術会議 (ICoMST2022) 日本開催の概要



坂田 亮一 (さかた りょういち) ●日本食肉科学会理事長、麻布大学名誉教授
日本食肉科学会 ICoMST2022 組織委員会委員一同

はじめに

標記の国際会議(通称ICoMST:International Congress of Meat Science and Technology)を2022年8月22日から25日の4日間、神戸国際会議場で開催した。ICoMSTは1955年に開催されたヨーロッパ食肉研究者会議を源として、その歴史が始まった。以来70年近くにわたって、食肉および食肉製品の諸問題に関して、各国の研究者や技術者が幅広い分野にわたる研究成果を発表し、意見を交わす場として世界各国で毎年開催されている。

本会議は食肉科学の発展に寄与するとともに、世界の食肉産業の成長にも多大な貢献をしてきた。日本で最初に行われたのは1999年の横浜で、その時はアジアでは初めての開催であった。以来23年後に再びわが国が選ばれ、今度は神戸での開催となった。

会議の本来のスタイルは、日曜の午後から参加者が集い、その週の金曜まで学術講演と討

論がぎっしり行われる。中日の水曜にはテクニカルツアーが行われ、1週間近い間に参加者がお互いに知り合って国や言葉の壁を乗り越え交流が生まれる。他の国際学会には見られない特有の雰囲気があり、それが魅力で世界中から人が集う。この会議の詳細は日本食肉科学会のウェブサイト(<https://jmeatsci.org/>)や、本学会の定期刊行誌「食肉の科学」などをご参照いただきたい。

近年のICoMST

2019年のドイツ・ポツダムでの65th ICoMSTまで従来のFace to Faceの会議だったが、翌2020年に勃発した新型コロナウイルスの感染が地球規模で拡散し、2020年の米国・オランダでの66th ICoMSTがバーチャル形式となった。それまでは68th ICoMSTのPRのために私たちの組織委員会から多くのメンバーが会議に参加してきたが、この時から委員会メンバーはリモート参加を余儀なくされた。2021年の67th



会場の様子、手前右が講演者と座長、左が配信スタッフ、向こうが傍聴席



伝統のカウベルを打ち鳴らし、会議開催を告げる

ICoMSTは、ポーランドのクラクフにおいてハイブリット様式で行われ、次期開催国の代表として日本の組織委員会から坂田が実参加した^{1,2)}。

ICoMST2022神戸開催の概要

そして2022年、食肉分野における世界中のトップの研究者、技術者が風光明媚な国際都市の神戸に集結し、最新の研究成果等について発表・討論の場を提供し、またわが国の畜産および食肉産業の発展に寄与することをこの会議の目的とし、実施に踏み切った。その間、コロナに翻弄されながらも現地とウェブ併用のハイブリッド形式での開催に決定し、現地での実施にあたってはコロナを考慮して抗原検査といった健康管理も行った。また講演では現地参加を制限し、オンライン会議サービス「Zoom」を併用した。そのために組織委員会では、何度も会議を行って論議を重ねてきた。

振り返ると、この会議が日本開催に確定したのは2016年のバンコクでの62nd ICoMSTの時に、そこから本格的に準備を開始した。この会

議の後援団体として、農林水産省、厚生労働省ならびに各種食肉・食品等関連団体、学会等に参画をお願い、各組織からほぼ同意を得ることが出来た。

募金活動として、ICoMST2022の趣意書を関連企業や団体に配布し、協賛金の拠金依頼活動を展開した結果、目標額を達成できた。食肉界からの御芳志に、厚く御礼申し上げる次第である。そして会議参加登録費を加えて、開催の目途を立てることができた。また、News Letterも組織委員会を立ち上げてから随時発行し、会議の広報に務めてきた。

本会議のセッション内容は「世界の食肉市場（市場動向、マーケティング）」、「日本の食肉産業・科学技術（世界に誇る和牛、ブランド肉、最新研究動向）」、「食肉微生物・安全性（微生物制御、添加物、包装）」、「筋肉生物学・生化学（最新筋肉研究、筋肉から食肉への変換等）」、「食肉製品・利用（ハム・ソーセージ、副産物利用、ジビエ）」、「食肉の生産・品質（生産、格付、品質、嗜好性）」、「科学技術の新展開（機能性食品、代替肉、新技術）」で構成され、日本の食肉産業や和牛について、また食肉の栄養に関してや培養肉、ジビエ、発酵肉、食肉の衛生などをテーマとした。その他、バーチャルでのコングレスツアー、企業展示プレゼンテーション、日本文化（華道、茶道、書道）の実演紹介、さらに神戸



ICoMST2022の配信のためのプラットフォーム



左から演者と座長団、カメラは各人のノートPCを利用



海外からの来場者が茶道を体験



ICoMST国際事務局長Dr. Troy Declan(アイルランド)の挨拶

ビーフの試食も実施した。

会議自体は英語で行うことがICoMSTの決まりであるが、今回のキーノートスピーカーによる講演は全て日本語の同時通訳で配信した。また、会場では毎日、News Letter(Kobe Special)を発行し、来場者に配布した。

その甲斐もあって、会議終了と同時に海外の参加者からもBrilliant Congress!!との称賛を得ることが出来た。Meat for the Futureをテーマとし、世界中からの研究者、技術者による最先端の講演や、それらの発信体制を組織委員が一丸となって準備できた賜物である。品質向上に貢献する生産加工技術の開発やAIなど先進・高度化技術の導入、培養肉、さらには動物福祉や地球環境への配慮をも含めた消費者動向など、幅広い課題について4日間に凝縮することは困難ではあったが、食肉科学を牽引してきたICoMSTの役割をこの日本大会でも果

たすことができたことを組織委員会としても自負する。また本会議によって、わが国の畜産および食肉産業の発展にも大いに寄与できたものと考えられる。今回の学術的議論を、次の大会(開催国イタリア)や、次世代に広く受け渡して参る所存である。

なお、参加者数は有料登録者に加え、キーノートスピーカー、会場スタッフ、協賛企業・団体や展示担当の来場者などで約350名、国別での参加は32カ国と集計されている。また外国人招聘講演者6名ならびにICoMST国際事務局長も神戸に来て会議に実参加し、盛会に努めてもらったのは有り難かった。

おわりに

参考までに会議中の取材インタビュー記事「国際食肉科学技術会議を神戸で開催、世界各地の研究者が集う」(食肉通信社、8月24日ウェブ版および8月30版)に掲載された内容の



閉会式を終えて、ゲストスピーカーと共にTeam Japan集合

一部を以下に転記する。

【坂田亮一委員長は本紙の取材に対し「日本初開催だった横浜開催のときはわれわれも若手として参加したが、そのときも日本の研究の革新性や和牛産業を取り上げて、世界中の研究者が注目した。それ以来、日本の研究も進み、とくに『食肉と健康』というジャンルでは日本はリードし始めている。今回の神戸開催は言語の壁も乗り越えて多くの若手研究者や学生も参加しており、日本の研究者も力を示せた。またこの力を次の世代にも継続していく。今後の食肉研究にも期待してほしい」と述べた。】

以上、わが国で2度目となったICoMST開催が無事終了したことを本誌面にてお伝えし、引き続きこの国際会議主催団体である日本食肉科学会への御理解と御支援をお願いするばかりである。

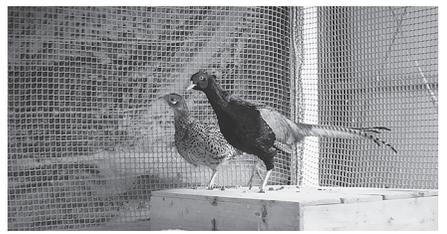
謝辞

今回の参加登録で助成いただいた公益財団法人伊藤記念財団に本誌面にて厚く御礼申し上げます。また同内容でICoMST2022の開催報告を「日本食肉加工情報」2022年11月号に掲載しており、ご快諾いただいた日本ハム・ソーセージ工業協同組合に拝謝申し上げます。

参考資料

- 1) 坂田亮一, 日本食肉科学会ICoMST2022組織委員会委員一同, 第67回国際食肉科学技術会議(ICoMST2021)ポerland開催の概要, 畜産技術, 2022年1月号, 48-53(2022)
- 2) 坂田亮一, 松石昌典, 有原圭三, 水野谷航, 早川徹, 他参加者30名, 海外事情「第67回国際食肉科学技術会議(ICoMST2021)に参加して」, 食肉の科学, 62(2), 145-177(2021)

ICoMST2022 KOBE JAPAN大会ウェブサイト
<https://icomst2022.com/>



今月の表紙

御料牧場のキジ

宮内庁御料牧場は、栃木県宇都宮市の北東、塩谷郡高根沢町、芳賀郡芳賀町にまたがる丘陵地に位置します。御料牧場では、外国大使の信任状捧呈式の乗馬・馬車列用の馬の生産、宮中晩餐、園遊会等の行事、皇室の方々の日常で利用される牛乳、肉、卵の生産といった皇室の用に供する家畜の飼養、農畜産物の生産を行っています。また、皇室の方々のご静養の場や在日外交団の接遇等国際親善の場としても活用されています。

写真は、日本雉^{きじ}の番い^{つが}です。当场で飼養されている雉は、新年に天皇、皇后両陛下が召し上がる「御祝先付(おいわいさきづけ)」と呼ばれるお膳に付く雉子酒(きじしゅ)として供されます。雉子酒は、塩を振って水分を抜いた雉の胸肉を焼き、薄切りにしたものに燗をつけた日本酒「温酒(おんしゅ)」を注いで作られます。

毎年2~3羽の新しい雄を導入し、約150羽の群を維持しています。その年にふ化した雄のうち約50羽が新年祝賀の御料品として、12月下旬に宮内庁に供出されます。

宮内庁御料牧場